

認定特定非営利活動法人 **日本雲南聯誼協会**

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階
Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん

検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第71号

発行日 2020年(令和2年)2月15日

会報

謹賀新年



皆様からの会費やご寄付で運営している NPO として会費やご寄付をより多く教育支援に使いたいという考えにより、新年のご挨拶をメール通信、会報誌『彩雲の南』、協会公式 HP、Facebook にて行わせていただいております。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

2020年もご支援・ご協力をお願い申し上げます

皆様のお陰で本年協会は設立20周年を迎えることができます。それに伴い「25の小さな夢基金」では支援春蕾生が1016名になり、「50の小学校プロジェクト」では二十五校の小学校建設を行うことができました。六月下旬には雲南省で二十周年式典を開催予定となっております。皆様と一緒に雲南省に行き、これからの日中の子供たちについて一緒に考えることができれば幸いです。

皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

認定特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会
理事長 初鹿野恵蘭 / 副理事長 遠藤功
役員・顧問・各支部長 / スタッフ一同



50の小学校プロジェクト

支援第16校 「日本友好巴坡僑心小学校」は いまなお立派に活用されています

2007年に開校した支援第16校「日本友好巴坡僑心小学校」のその後の状況を確認するため、昨年10月雲南省の「陸の孤島」と呼ばれた独龍江郷を訪ねました。



▲授業をのぞかせてもらいました

ターが使われていました。子どもたちも皆、きれいな服装をしていました。かつて栄養失調が心配され、衛生上の危惧を抱えていた学校の面影は払拭されていました。まさに「今昔の感」がしました。

午前中の授業が終わり、太陽が燦々と降り注ぐ校庭に子どもたちの賑やかな遊び声が響きました。かつては「陸の孤島」と呼ばれた独龍江郷にも開発の波が到達し、地域の人々の生活も少しずつ豊かになっているのを感じました。



寄宿舎



■ご協力(順不同、敬称略)

雲南省華僑連合会、怒江リズ族自治州華僑連合会、
貴州省華僑連合会、貴州独龍族怒族自治县華僑連合会、
独龍江人民代表会、昆明市女子中学、
雲南省財経大学肖涵予先生と生徒4名、昆明森藍文化伝播姜巾杰先生

「日本友好巴坡僑心小学校」は雲南省西北部山岳地帯を流れる独龍江の川岸にあります。2004年に初鹿野理事長、片岡巖顧問などが視察を行い、その3年後に、日本の外務省による「NGO支援無償資金協力」を得て、協会が16番目に支援して校舎を再建した学校です。

昆明から空路で保山へ飛び、そこから怒江に沿って陸路を北上。六庫、福貢、貢山を経て、巴坡小学校のある独龍江郷まで、およそ800km。保山からでも片道2日、支援校の中でも最も奥地に位置しています。開校当時は、



▲協会からのプレゼントを手渡しました

国道とは言え断崖絶壁の、未舗装、凹凸の1本道を上下左右に揺られての難行苦行の道しなく、冬期には雪と氷に閉ざされる、雲南省の「陸の孤島」と呼ばれていました。

10年の歳月はあらゆるものを変えていました。かつて、あれほど難儀した道路はほぼ100パーセント舗装され、岩が丸出し状態だったトンネルは照明設備を完備した快適な道路になっていました。独龍江郷の街は、川沿いに遊歩道が整備され、ホテルや郷土博物館、土産物店などが軒を連ね、通里には多くの観光客が散策を楽しんでいました。

独龍江郷からさらに山道を走ることおよそ一時間、巴坡村に到着。独龍江に沿って30軒ほどの農家が立ち並び、長閑な村です。折しも授業中で閑散とした校庭へ入ると、協会が支援した校舎がすぐに目に入ってきました。開校当時に比べ少々色褪せてはいましたが、現在もなお立派に活用されています。先生のお話では、現在は就学前児童を含めて小学3年生までの児童、約60名がここで元気に学んでいるそうです。教室には電気も引かれ、算数の授業ではパソコンと連動したプロジェク

緊急支援！ 新型肺炎・武漢市と雲南省へマスクと寄付金のお願ひ

報道の通り中国は新型ウィルス肺炎による未曾有の事態となり2月11日現在、中国全土で罹患者が4万人を超えています。協会では2月始めより急速、会員の方々を中心にマスク支援を呼びかけ、これまでに皆様より約1万枚のマスクと医療用手袋6,000枚をお送りいただきました。特に会員の鈴木様より武漢の為に100万円が寄せられ、JR東海芳新幹線関西本部よりマスク2,000枚をご寄付頂きました。また会員の三木隆秀様、名古屋支部長近藤



ご協力いただきました皆様にご感謝申し上げます。

生そして安藤哲夫様より沢山のマスクをご寄付いただきました。協会では更に感染拡大を懸念し、マスクの調達及び皆様からの寄付金を呼び掛ける活動を継続して行っております。使い捨てマスクは「25の小さな夢基金」で支援している昆明市女子中学と昆明市内の病院および金平県等の地域へ送ります。支援金は使い捨てマスク購入や運送料に使わせていただきます。是非武漢と雲南の為に協力をお願い致します。

詳細は協会ホームページをご覧ください
http://www.jyfa.org/

【使い捨てマスク送り先】

〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階
認定 NPO 法人日本雲南聯誼協会東京本部事務局
TEL 03-5206-5260(平日 10-18 時)

※マスクは未使用・未開封のものをお願い致します。

【支援金振込先】

●ゆうちょ銀行振替口座 00100-8610935

●三菱 UFJ 銀行 目黒駅前支店

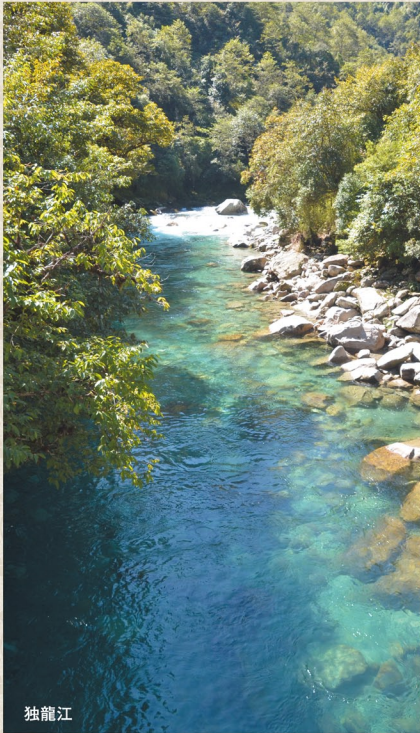
普通口座 1300380

特定非営利活動法人日本雲南聯誼協会

※お振込み手数料のご負担をお願い致します。

独龍江の風景

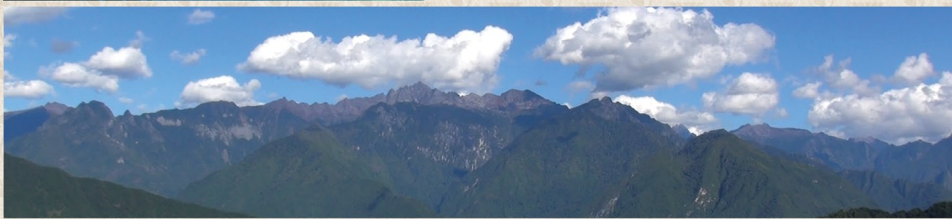
「50の小学校プロジェクト」支援第16校目「日中友好巴城僑心小学校」を再訪問するために雲南北西に位置し、ミャンマーと国境を接する秘境・独龍江に行ってきました。独龍江の美しい大自然、そこで出会ったたくましく生きる人々を写真でご紹介します。



独龍江



かつては女性の顔に刺青をする習慣があったトールン独龍族



連載 卒業生の今 Vol.5 深い愛情、無限の感謝



左端 楊文麗さん

楊文麗さん

私は春蕾卒業生で、現在は小学校の臨時教師です。まだ正式な教員ではありませんが、正式な教師を目指しています。本当に教師になりたいのか、本当に教師に向いているのか時々自問しています。仕事を始めてから、一人前の教師になるのは大変だと痛感しました。教師になったその日から教師がなぜこんなに大変なのか理解しつつ、多くの教師が頑張っていることに感動しています。どうやって教えるのかを教わられた時、生徒の天真爛漫な笑顔を見た時、生徒たちが「先生」と呼ぶ時、言葉にできないほどの感動を覚えるのです。

楽しく短かった高校生活を思い返すと、三年間に最高の親友、そして先生と知り合い、更に協会のおじさま、おばさまと知り合いました。特に恵蘭おばさまは優しく綺麗で、上品です。恵蘭おばさまから三年間ご支援を受け、手紙をいただきました。新年やその他の行事にはプレゼントまでもらい、本当に尊敬感謝しています。プレゼントをもらうたびにとてもうれしかったです。

恵蘭おばさまのほか、協会のおじさま、おばさまも経済面のご支援だけでなく、私たちの成長をいつも気にしてくれました。協会は毎年、支援者の皆様との交流の機会を設けてくれました。これらは恵蘭おばさまとその他の方々の努力のおかげで、本当に皆様に感謝します。協会のサポートの下、何の心配もなく高校の3年間を過ごすことができました。

特に感動したのは卒業式で、雨が降っていたと思いますが、そばにおじさま、おばさまがいてくれて、とてもうれしかったです。おじさま、おば

さまちはまるで両親のように遠路はるばるきてくださいました。私たちの成長を見てもらって嬉しく、同級生たちは泣いたり、興奮したり、感謝にたえませんでした。

私たちが社会人になりました。今、私たちが社会にどのように貢献できるのか分かりませんが、私たちももう責任を負える大人です。両親や先輩の皆様を敬い、社会に恩返しをすべき時になりました。感謝の気持ちで暮らし、生活に潤いをもたらさなくてはなりません。

私もいずれ、おじさま、おばさまたちのように経済的に援助が必要な学生を助けられるようになります。協会が私たちの助けが必要な時、できる限りのことをすぐにやります。

最後に協会、そして恵蘭おばさまが私たちにしてくれた全て、温かい気持ちに改めて感謝申し上げます。私はこれからも仕事に学習に努力していきます。自分の力で多くの人たちを手助けしていきます。私たちの後輩たちの大学進学を夢をかなえていただき、こんなに素晴らしいことを続けているなんて、皆様は本当に偉大です。

2012年入学 第7期生 楊文麗(イ族)

翻訳ボランティア: 渡辺 幸彦さん



2012年「夢基金フォーラム」にて 左が楊文麗さん

1日80円でできる
教育支援
「25の小さな夢基金」
2020サポーター
募集中

1対1で子どもたちの未来をサポートしてませんか?

雲南の女子高生を3年間ご支援いただくプロジェクト「25の小さな夢基金」。これまで毎年、約100名の春蕾生を支援してまいりましたが、今年からは昆明市女子中学からの要請により支援生徒数が増え約180名の春蕾生を支援することになりました。現在、彼女たちの夢を応援していただけるサポーターを大募集しております。皆様からの温かいご支援をお待ちしております。

詳細は: 協会公式 HP <http://www.jyfa.org> → 「教育支援」 → 「25の小さな夢基金」



お問い合わせ・お申し込み ↓
東京本部事務局
(月～金、10～18時)

TEL 03(5206)5260

✉ yunnan@jyfa.org

連載

こんにちはCSR

ー協会を支えてくださる協力企業からのメッセージー

第26回●会社名および団体名○○○○○○○○○○

“ダンス”で協会の活動はもとよりさまざまな社会貢献活動を行っている、ブランニューダンスマーケットの能見広伸氏を練習場にお訪ねし、能見氏の恩師でもある寒水泰江先生を交えてお話をうかがいました。

会社概要■

設立：1994年6月4日
 設立：〒191-0043
 東京都日野市平山 5-11-32 大沢コーポ1階
 HP <http://bndm.co.jp/>
 ブログ <https://blogs.yahoo.co.jp/bndancemarket>
 Facebook
<https://www.facebook.com/brandnewdancemarket/>
 日野スタジオ、新宿教室、南大沢教室にて展開

お約束の時刻。練習場のドアを開けた途端、軽快にリズムを刻む手拍子と明るいテノールの声が耳に飛び込んできました。大いに緊張して中へ入ると、指導待ちの生徒のみなさんが三々五々柔軟体操をしたり、振り付けの練習をしたり、まるで舞台裏のような雰囲気。そこはかとなく熱気が伝わってきました。

「あなたあっち、わたしこっち、はダメだよ!」

能見先生が自ら踊りながら、連続する動きの要を指導します。生徒はその動きの一つ一つに真剣な眼差しを注ぎ、すぐさまそれを繰り返します。全員の動きが手の先、足の先、目の先まで一つになって停止。

「そ〜う!」

能見先生が叫ぶと、張りつめた生徒の顔が弛みしました。

寒水先生は今年、御年齢82歳、舞踊家生活65年を迎えます。能見氏とはかれこれ40数年、能見氏のお父上の代からの繋がりがそうです。能見氏の父上は、日本が高度経済成長を迎えた1950年代、数寄屋橋の“日劇”でトップダンサーとして活躍され、日本のダンス界を牽引した方で、当時、寒水先生もその指導を受けました。そのご縁で、能見氏が父上の跡を継いでダンサーの道に



能見広伸先生(左)と寒水泰江先生

進まれたとき、寒水先生に師事しました。のちに能見氏はダンス集団「ブランニューダンスマーケット」を主宰し、テレビや舞台などのさまざまな商業活動と平行して、東京都内で常設のダンス教室を運営するかたわら、全国各地の幼稚園から小中高大学のダンスサークルの指導に奔走しています。

能見氏は「ダンスはアンサンブル、調和が美しさを作り出す」と言います。寒水先生は「踊りは人の価値観、人となりを映し出し、踊ることは「自分の内を見つめ、肉体と心で対話する」ことであり、「素直さと協調」がなによりも大切だと仰っていました。

能見氏と協会とのつながりは、10数年前、協会の法人会員JR総連のご紹介に始まり、2001年にニューヨークで発生した“911テロ事件”を契機に、能見氏は「戦争が始まっ

てしまうのでは」と強い危機感を覚え、ダンスで反戦を訴える路上パフォーマンスを行いました。その様子が全国紙に取り上げられ、その主旨と行動に賛同したJR総連が連帯を申し入れ、反戦路上パフォーマンスは東京から全国へ広がっていきました。その後、JR総連のご紹介で協会との交流が始まり、協会の活動支援はもとより、毎年恒例の忘年会ではダンスパフォーマンスで会場を盛り上げていただいています。「協会の主旨はもちろんですが、理事長には、「ノーと言えない」魅力があります」と能見氏は笑っていました。

将来の夢をうかがったところ、「日本のダンス作品を受け継ぎ、新しい作品を生み出したい」と能見氏。また、「寒水先生の作品を世界に紹介したい」とも。「生活の中から独自の動きが生まれる」と寒水先生。ダンスは西洋伝来の文化ですが、日本に定着して日本人のリズム、動きが独自の文化になっているそうです。寒水先生は「ダンスを通して異文化の交流、人とのつながりに貢献したい」と仰っていました。その一つとして、「2010年に頓挫した雲南省公演を来年、是非とも実現したい」と力強く語ってくれました。桜満開の春の晩、勇気と元気をいただいたインタビューでした。

※CSR=Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任) : 利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

2019年度前半新規会員ご紹介 (2019年4月〜10月ご入会順、敬称略)

株式会社エイジック、立野有文、鈴木理子、柳瀬充孝、宗教法人信松院、井田裕基、大鷲好信、青木美恵子、長尾裕美、赤間寛司、株式会社フォーラムエイト、松田龍児、邵彤、小林卓、小山順之、陸曉雲、盧忠玲、王曉東、李慧、丁国強、曹惠芝、許慧雯、楊留根、鄭永雄、李梅、何聖佑、邱乾龍、鄒翠麗、鮮銳洪、小松道彦、時津寿之

お申し込み

協会公式 HP → 支援に参加する → 会員になる
<http://www.jyfa.org>

ひろげよう支援の輪 新規会員募集中

1 か月 500円からできる教育支援
 雲南少数民族の子どもたちに豊かな未来を!

2000年の設立以来、雲南省の少数民族貧困児童の教育支援活動を行っています。協会の趣旨に賛同し、支援していただける個人、企業、団体を随時募集しています。

正会員	一口 6,000円 (500円/月)
賛助会員	一口 12,000円 (1,000円/月)
法人会員	一口 18,000円 (1,500円/月)

※法人会員は3口以上
 お願いします

※正会員と法人会員には総会における議決権があります。賛助会員は事業・活動に賛同し、賛助していただくため議決権はありませんが、賛助会費は寄付金控除の対象となります。

※4月1日から3月31日までを1年度とします。

※年度途中でご入会の場合は初年度の会費は入会月から年度末(3月)まで月割で計算させていただきます。

会員には会員証を発行し、会報誌「彩雲の南」を年4回(2月、5月、8月、11月)、お送りいたします。

認定NPO法人日本雲南聯誼協会へのご寄付は寄付金控除の対象となります

協会では随時、皆様からのご寄付を受け付けております。

ご寄付は雲南少数民族の教育支援活動、協会運営のために大切にさせていただきます。

当協会は東京都より認定を受けた「認定NPO法人」です。認定NPO法人へのご寄付は税制優遇(寄付金控除)が受けられます。

※法人の場合、一般寄付金の損金算入限度額は別に、特別損金算入限度額の範囲内で、損金として算入することができます。詳しくは最寄の税務署にお問い合わせください。



Cheer up the world あなたのチカラを、世界に 日本最大級の国際協カイベント グローバルフェスタJAPAN 出展

10月6日の「国際協力の日」にあわせて開かれる「グローバルフェスタJAPAN」。同フェスタは、国際協力に携わる政府機関、NPO・NGO、企業、教育機関が一堂に会し、「国際協力」を皆で考え、より身近に感じてもらふことを目的としています。今年は9月28、29日の2日間、東京都港区のお台場海浜公園で開かれ、250団体以上が出展、183,743名(主催者発表)が来場しました。

協会ブースには、雲南少数民族の民族衣装を身にまとったボランティアが集結。暑い中、協会活動の説明をはじめ、プーアル茶の試飲や民族衣装の試着、少数民族ハンドクラフトのチャリティーバザーなどを行いました。

初日には御年90歳の協会支援者の大垣さんや「大学生交流グローバルリーダー育成プログラム」に参加した学生さんたちが、2日目には会員の鴻谷さんと大泉さんが協会ブースを訪れてくれました。

協会ブースを訪れてくださった皆様
 温かいご寄付をいただきました皆様
 朝早くから夕方までご協力いただきました
 ボランティアの皆様
 この場をお借りして厚く御礼申し上げます
 ありがとうございます

小さなかわいい
 ボランティアさんも協力

ボランティア協力(順不同、敬称略): 株式会社技術評論社、森保次郎、鹿志達、李瑛、李慧淇、林俊鴻、中田健吾、宋愛平、吳嵐、龐西、侯徳鳳、上原正夫、滝澤崇、陸欣妍、陸欣妍さんお子さん



協会ボランティア通信 連載 第10回

大宮支部特集

大垣晃一さん



大垣晃一さん(中央) グローバルフェスタJAPAN2019にて

大垣さんとの出会いは約9年前、大宮支部が浦和で開いた写真展。大垣さんは高校の元物理教師で、植物の研究に力を入れていて、その時、雲南省の青い圃や植物を現地で見たいとおっしゃいました。それ以来、いつも大宮支部の写真展やイベント、大宮支部春節パーティーに足を運

んでいただき、昨年9月には本部出展の「グローバルフェスタJAPAN2019」にも暑い中、来ていただきました。

大垣さんは「何かの役に立ててほしい」とご自宅にあったチェーンソーを本部に寄付してくださったり、「夢基金のサポーターになりたい」とご連絡をいただいたりとお応えいただいています。

現在92歳の大垣さんは2年前まで山に登り、日本の山の半分以上に登ったことがあるそうです。まだまだお元気な大垣さんの姿を見ると、こちらが励まされます。これからもよろしくお願いします。

大宮支部長 寺内明子

「視野を広げて」と教わる

私は10年ほど前に日本雲南聯誼協会を訪れ、『愛と友情のトンパ文字』に出会って、生きている象形文字に感激しました。以来、トンパ文字を今に伝える民族のことが頭の中を駆け巡っています。

ある年、さいたま市の文化センターで絵手紙の展示活動をしている方にトンパ文字を紹介したところ、「展示テーマに格好です」とおっしゃっていただきました。その後、背丈の倍ほどの用紙にグループで絵解き風にトンパ文字を仕上げ、日本人にも分かるように発表しました。

象形文字であるトンパ文字に注目した協

会と会員の方に敬意を表したいと思います。また、協会の行っている小学校建設と教育支援は、日本国内にもきっと良い影響を与えていることでしょう。

私は大宮支部の活動をきっかけに、市ヶ谷にある東京本部を訪れました。2019年9月にはお台場で開かれているグローバルフェスタで、協会ブースを訪問しました。訪問のたびにスタッフの開放的な雰囲気、感銘し、その都度親近感を深めながら、改めて「視野を広げる」大切さを教わっています。日本雲南聯誼協会は私の国際感覚を高めてくれた「もう一つの学校」です。

大垣晃一

お知らせ

新顧問ご紹介

在重慶日本国総領事館前総領事

小松道彦 顧問



雲南省を管轄地を含む重慶日本国総領事館の前総領事、小松道彦さんを新たに顧問にお迎えしました。小松さんには在職中から協会の活動にご協力いただいており、退職を機にこれまでの経験を生かして協会に新しい風を吹き込んでいただくようお願いしたところ、快くお引き受けくださいました。

皆様こんにちは。私は本年3月、重慶総領事を最後に外務省を定年退職しました。中国大陸での勤務は16年になります。重慶勤務の際に当協会の雲南省貧困地区での教育支援活動を知り大変敬服しました。私も中国経験を活かして何かお手伝いできればと思っていますので、よろしく願い申し上げます。

在重慶日本国総領事館前総領事 小松道彦

大宮支部イベント報告

あげおワールドフェア2019

大宮支部今年も出展

大宮支部が毎年出展している「あげおワールドフェア」が10月6日(日)、上尾市文化センターで開かれました。ボランティアの皆さんは9時にはもう会場に集まっていて、ブースの準備はあっという間でした。

チャリティーバザーでは、私が皆さんにあげるつもりだった野菜を急遽出品することになり、なかなか手に入らない野菜ということもあってすぐになくなってしまいました。皆さんから寄付していただいた品物もテーブルいっぱいになり並びました。

空きスペースに民族衣装を飾ったところ即席試着会が始まりました。子どもから大人まで試着して喜んでいる笑顔を見ると、とても励みになりました。

展示ブースでは男性陣が忙しく協会活動を紹介していました。毎年、大宮支部ブースに寄ってくださる顔見知りの方も増え続け、「今年も参加してよかったな」と思いました。

このフェスティバルは小規模ですが、様々な国の文化が楽しく体験できます。子ども連れの家族も多く、フェスティバルを通じて平和な世界にできたらいいなと思いました。

大宮支部支部長 寺内明子

ボランティア協力（順不同、敬称略）：鳥羽清広、川口邦夫、大泉國雄、青柳茂樹、金子沙樹、村上愛平、吉澤麗子、龍西、横山ルル、松本薫、松本裕子、董秀娟、村上愛平、吉澤麗子、周鳳賢、龍西、横山ルル、寺内明子



さいたま国際ふれあいフェア2019

「さいたま国際ふれあいフェア2019」は10月13日(日)に開催予定でしたが、台風のため翌14日(月・祝)に延期となりました。心配した雨がやはり朝から降り続き、チャリティーバザーは残念ながら大盛況とはなりませんでしたが、この日もボランティアの皆さんから品物を寄付していただき、近くに住む会員や東京本部からかけつけてくれた滝澤崇さんご夫妻などのおかげで募金も集まりました。

このフェアは国際友好促進のために始まりましたが、毎年参加している国はそう多くありません。色鮮やかな民族衣装や工芸品があり、たくさんのボランティアがいる大宮支部のブースはとても目立ちました。これも初参加の董秀娟さんをはじめ、千葉や東京など遠いところからお手伝いに来ていただいたボランティアの皆さんのおかげです。みなさん、ご協力ありがとうございました。

大宮支部支部長 寺内明子

ボランティア協力（順不同、敬称略）：鳥羽清広、川口邦夫、大泉國雄、青柳茂樹、金子沙樹、村上愛平、吉澤麗子、龍西、横山ルル、松本薫、松本裕子、董秀娟、遠岡津洋子、寺内明子



中国百科検定③

第7回中国百科検定は、昨年12月8日(日)に終了し、今年3月には第8回を実施します。文化的、経済的にも強いつながりのある隣国の中国を理解することは、学校の授業やサークル活動、仕事、中国旅行などで欠かせないものです。是非受験してみてください。今号では『問題集』と過去問題から2題の2級問題にチャレンジしてみてください。

Q1

アジアで最も早く映画が上映されたのは中国である。それは何年のことか。

- ①1896年 ②1905年
③1910年 ④1931年

Q2

納豆やこんにやくなど日本と共通の食べ物がよく見られるのはどの省か。

- ①貴州省 ②江蘇省
③福建省 ④雲南省

お問い合わせは日本中国友好協会
(〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-2-3 鈴和ビル 5F
TEL.03-5839-2140 FAX.03-5839-2141 e-mail: nicchu@jcfa-net.gr.jp) まで。

解答 Q1 = ① 1896年、Q2 = ④ 雲南省

イベント報告

令和元年度 第3回理事会
及び役員・顧問会

令和元年度第2回理事会及び役員・顧問会が下記の通り行われました。

日 時：令和元年11月22日(金)

場 所：株式会社技術評論社5階会議室

【議案】「25の小さな夢基金」サポーター獲得、「25の小さな夢基金」の新機能、令和2年度チャリティーゴルフコンペ、SDGsへの取り組み審議を行い、全て原案通り承認されました。



第40回八王子いちよう祭り 出展

11/16(日)と17日(月)の二日間、協会発足の地である東京都八王子市の「八王子いちよう祭り」が開催され、昨年にも出展しました。

両日ともお天気に恵まれ、来場者数は497,000人(主催者発表)にのぼり、協会ブースにもたくさんの方にお越しいただきました。

作年は協会ボランティア初参加の方が多かったですが、大きな声でプーアル茶試飲の声かけをしたり、積極的に協会活動やプロジェクトを説明したりとボランティア初参加とは思えない活躍ぶりでした。

今後も若い力を発揮して、協会プロジェクトやイベントでの活躍が期待されます。

第70回
東京大学駒場祭
中国茶研究会 出展

「第70回東京大学駒場祭」が11月22日から3日間、目黒区の東大駒場キャンパスで開かれました。同大中国茶同好会の協力で協会が初出展し、雲南省や少数民族について展示を行いました。

特に人気だったのが中国茶コーナーです。中国茶といえばウーロン茶、というイメージの方も多かったのですが、雲南の銘茶プーアル茶をきっかけに、雲南省や少数民族、協会にも興味を持っていただきました。



学生会員・ボランティア 渡部優美



ボランティア協力（順不同、敬称略）：株式会社技術評論社、日本産業投資技術促進株式会社、佐藤雅之、銭昱立、王国棟、謝龍、張瑾、鄭林陽、張雪芬、Kritsada Mongkoldee、牟常興、平田栄一、初鹿野仁、滝澤崇、初鹿野重理

Cheer up the world あなたのチカラを、世界に
日本最大級の国際協力イベント グローバルフェスタ JAPAN 出展

10月6日の「国際協力の日」にあわせて開かれる「グローバルフェスタ JAPAN」。同フェスタは、国際協力に携わる政府機関、NPO・NGO、企業、教育機関が一堂に会し、「国際協力」を皆で考え、より身近に感じてもらうことを目的としています。今年は9月28、29日の2日間、東京都港区のお台場海浜公園で開催され、250団体以上が出展、183,743名(主催者発表)が来場しました。

協会ブースには、雲南少数民族の民族衣装を身にまとったボランティアが集結。暑い中、協会活動の説明をはじめ、プーアル茶の試飲や民族衣装の試着、少数民族ハン

ドクラフトのチャリティーバザーなどを行いました。

初日には90歳を超える協会支援者の大垣さんや「大学生交流グローバルリーダー育成プログラム」に参加した学生さんたちが、2日日には会員の鴻谷さんと大泉さんが協会ブースを訪れてくれました。



協会ブースを訪れてくださった皆様
温かいご寄付をいただきました皆様
朝早くから夕方までご協力いただきました
ボランティアの皆様
この場をお借りして厚く御礼申し上げます
ありがとうございました



小さなかわいいボランティアさんも協力

ボランティア協力（順不同、敬称略）：株式会社技術評論社、森保次郎、龍志達、李瑾、李慧、林俊鴻、中田健吾、宋愛平、吳鳳、龍西、侯德鳳、上原正夫、滝澤崇、陸欣妍、陸欣妍さんお子さん



編集後記

新型コロナウイルスによる肺炎が中国で猛威を振るっています。中国ではマスクが売り切れ、日本にいる中国人留学生らは家族や親戚にマスクを送っています。訪日外国人観光客や在日外国人労働者の数を考えれば、中国と日本は今や文字通り一衣帯水の関係です。中国が風邪をひけば日本は知らん顔というわけにはいきません。人ごとではなく、自分の問題として捉え解決策を考えることが、結局は双方にとっての利益であると再認識したいと思います。

(編集長・木本一彰)